

日本家族社会学会第 26 回大会

公開シンポジウム

# 専門家による家族介入の現在

## 家族を外側から支える実践

2016 年 9 月 11 日 14:00-16:45

早稲田大学 戸山キャンパス 38 号館 2 階 AV 教室 非会員は入場無料

非会員がシンポジウムのみ参加する場合は無料となります(先着 100 名)。非会員でシンポジウムのみ参加希望者は、公開シンポジウム参加申し込みアドレス<jsfs-sympo@bunken.co.jp>宛のメールに「家族社会学会公開シンポジウム参加希望」と明記の上、お名前、ご所属、連絡用メールアドレスを書き添えて、お申し込みください。締め切りは 2016 年 8 月 31 日です。会員および他のセッションにも参加希望の非会員は、通常の大会参加申し込みをしてください。プログラムなどの詳細は下記の大会サイト参照。

日本家族社会学会 第 26 回大会ウェブサイト <http://www.wdc-jp.com/jsfs/conf/2016/index.html>

第1報告 家族療法のいくつかの考え方 中村伸一(中村心理療法研究室)

第2報告 家族関係の再編成の観点から見た家事調停の現状と課題

—未成年の子がいる夫婦の離婚事件の処理に焦点を当てて— 原田綾子(名古屋大学)

第3報告 障害者福祉制度は障害者家族の親子関係をどのように変えたのか

—ケアの社会的分有、その後について— 中根成寿(京都府立大学)

討論者 天田城介(中央大学) 松木洋人(大阪市立大学)

本シンポジウムは、専門的な知が「家族」に介入し、「家族」を形作る現場で何が行われているのかを明らかにすることを目的としている。家族社会学会では、社会構成主義に基づき、「家族」が構築されているという指摘がなされて久しいが、現代では、多様な専門的な知が「家族」に介入・支援・教育することによって、「家族」の維持や再構築を試みているといえる。本シンポジウムでは、専門家という第三者の関与によって「家族」が人工的に維持・構築されることの社会的意味を論じてみたい。まずは、家族療法・法社会学・障害学において実践・研究の先端を切り拓いている 3 名に報告者としてご登壇いただく。各報告者には、それぞれの専門分野における最新の理論と実践およびそれらの背後にある家族観に着目し、専門知による家族介入として具体的にどのような実践が行われているのかを論じていただく。各報告には、介入実践が家族にもたらしているものは何かについて議論する基盤を提供していただけるだろう。その後、本学会員 2 名の討論者にご登壇いただき、3 報告への批判的評価に加えて、家族社会学的な営みと他分野の専門家による家族臨床・支援現場との間にはいかなる有意味な連携が可能なのかについても議論していただく予定である。

司会:和泉広恵(日本女子大学) 野沢慎司(明治学院大学)